

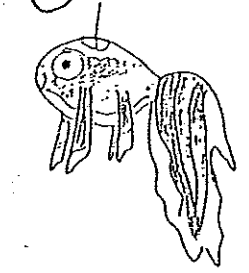
# 夏休み 子供わくわく教室



8月22日

## 親子「金魚ちょうちん」づくり

9時30分～16時・親子で一日、柳井民芸の金魚ちょうちんづくりにチャレンジ。(会場: 桜木公民館)



- 定員(限定)親子20組(40名)(子供は4年生以上)
- 受講料、工作材料代・1セット 200円が必要です
- 携行品、昼食・物差し・ハサミ・小筆・鉛筆・新聞紙(約5枚)
- 受講申込、先に、桜木小学校児童に配布した申込書を、8月10日(土)までに桜木公民館に提出すること。  
※先着順で締め切ります。

### 講師

(元・伊藤庄太郎) 秋本泰一先生

## ★「海の神秘」★を観る

8月24日

## 親子で、海底散歩を(シュレーション)しませんか。

9時～20時30分  
会場: 桜木公民館  
講師: 周陽中学校 高村 取雄

美しいサンゴ、熱帯魚など海の中の限りないロマンスの世界を、ビデオ・スライドを駆使して紹介します。

## 炎天下の大熱戦

### 激闘の地区子供会球技大会

(7月23日・子供会育成連絡協議会が実施)

- ☆ (男子) ソフトボール ●優勝: 桜3 準優勝: 桜2 三位: 城4 桜1
- ☆ (女子) ポートボール ●優勝: 城4 準優勝: 城2 三位: 市住2 桜2

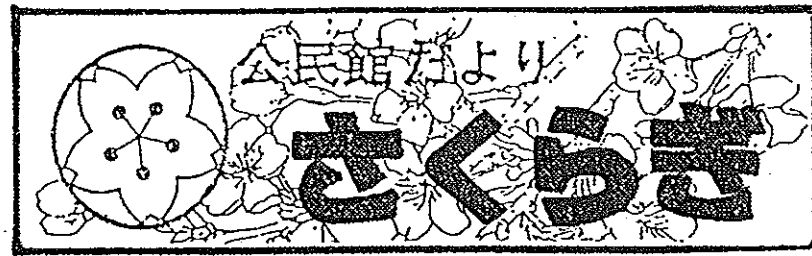
※優勝チームは、8月26日の徳山市大会へ、地区代表として出場します。

特別教室三教室の増築工事が、いよいよ八月から着工される。この工事に伴い、学校では次のように一般の協力をお願いしている。「工事中は、大型の工事用機械・車両などの通行、出入りが頻繁になるほか、近隣の方々に、なにかと御迷惑をおかけすることと存じますが、「学校施設の充実整備」と言う特別な事情をご理解頂き、格別のご協力を賜りまして、すよう宜しくお願い申し上げます。

### 桜木小学校ニュース

#### ●城東寿会Bが優勝●

平成元年度、夏季・周南団地老人クラブ連合会のゲートボール大会(7月19日)「桜木地区健闘!!!」  
○優勝・城東寿会B。  
○準優勝・城西寿会。  
○三位・平原寿会B。



平成元年 8月  
NO. 89 — 7  
発行 桜木公民館  
徳山市城ヶ丘2-4-21  
☎ 0834-28-5973

## チャレンジ・ザ・ゲームの公認記録 ★ロープジャンピング(なわ飛び)

(日本レクリエーション協会 全国月間記録で)

## 「日本一の栄冠」は桜木地区チーム。

(財)日本レクリエーション協会・チャレンジ・ザ・ゲーム推進本部が認定

去る、4月22・23日に徳山市陸上競技場で開催された、「'89花と緑のレクリエーションまつり」の広場で、「チャレンジ・ザ・ゲーム第一回徳山大会」が行われ、チャレンジした種目の中「ロープジャンピング」(集団なわ飛び)の部で桜木地区Bチームは[49回]の記録を出し、この記録が、日本レクリエーション協会の全国月間記録集計により、月間順位1位(日本一)の栄冠を獲得したことが発表された。

### ◆他のゲームの記録◆

ロープジャンピングの他に、桜木チームは果敢に挑戦したが、未だ不慣れな点もあり、必ずしも満足すべき記録ではなかったが、初挑戦にして立派な結果であった。

#### ◆グループ・バンブーダンス(開いたり閉じたりする竹の棒の間をとぶゲーム)

\*桜木A-5位、同C-9位、同D-13位、同B-24位。

(参考)徳山の順位。今宿14位、遠石14位、25位

#### ◆キャッチング・ザ・スティック(地面に立てたステッキを横に移動しながら掴むゲーム)

\*桜木の4チームは、22、28、32、34位。

(参考)徳山の順位。今宿7位、遠石23位。

## 写真

### 運動会の写真

申込をされた方は、公民館に取りに来て下さい  
1枚・35円。

### 桜木地区チームの記録

1位・桜木Bチーム、49回日本一

6位・〃A〃 30回  
9位・〃D〃 25回  
19位・〃C〃 8回

参考記録・2位42回(東京都チームA)  
3位36回(北海道チーム)  
4位35回(東京都チームB)  
5位34回(岡山県チーム)  
(徳山から遠征チームもチャレンジして10位(25回)の記録した。)

## 子供と老人

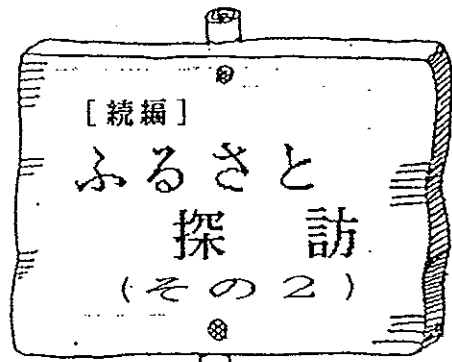
### ふれあい再発見

#### ●三代交流ゲートボール大会●

★地区老人クラブ連合会と子供会育成連絡協議会が開催。

★9月17日(第3日曜日)9時から桜木小学校運動場。(雨天中止)

★1チーム7名～5名で、チーム編成は、児童・保護者・老人の混成。



〔寄稿者〕 城北寿会・黒坂政雄氏

公民館だより7月号に引き続き、黒坂先生からの「ふるさと探訪・その2」をお届けします。尚・見出し記事※印(城が岡)の文字使いは、古文書にある文字使いがそのまま引用されています。



(写真は、平原からの「とのおの山」遠景)

古文書に記録のとのおの山!!! 「かき上之小城」で激単哉? りのこじら

寛延三年(1750)徳山村の地下上申(地味)に、「馬屋の東に城が岡という山がある」ということが記載されている。この「城が岡」が元文五年の久米村の地下上申には「とふの山」と出ている。

また、風土注進案(どちりしん)には「遠野尾山」とあり、その他にも「とふの尾山」「遠尾山」という記録が残っている。

このことは、同じ山でも、時代により、所によって呼び名が違っていたことをうかがい知る縁(はづ)になると思う。

この遠尾山が、歴史の上に出て来るのは南北朝時代で、今から六百数十年も前のことである。

この山は、当時南朝に組していた大内氏の勢力と北朝に組して下松に根拠を持ち、周防国を支配していた鷲頭(たかづ)氏との対立の最先端であった。

地形上からも、ここは、東は下松・花岡方面を指頼の間に収め、西は富田・福川を一望にでき、作戦・連絡等の要衝に当たっていたと思われる。

故に、この山は、福川の若山城から富田・一の井手・城が岡と、各砦を有機的に結ぶ作戦上で、極めて重要な意義を持ったのである。

冒頭に掲げた地下上申には、続いて「昔この山には『かき上之(湖)小城』があった。その居城の人

が、ここに馬屋をおいたので、この地を『馬屋』といった。」と記されている。「かき上之小城」とは、緊急時に大急ぎで造った小城という意味であって、即ち「砦」であった。この小城(砦)は若山城へ連なる砦であり、陶(た)氏の家臣の野上氏が防守に当たっていたのである。

この、とのおの山の麓には数多くの五輪塔(ごりんとう)があったが、その後平原の谷間に埋めたり、寺へ運んだりして処分してしまった。

五輪塔は、下から「地・水・火・風・空」の五要素を表現したものであり、死者に対する供養塔である。それは「宇宙の全てはこの五要素から成る」と言うインド仏教思想を基にしたもので、インド古来の形のまゝ日本に伝来したものであるという。おびただしい五輪塔が、この山麓に存在したと言うことは、とのおの山で激しい戦闘があり、多数の戦死者が出たということ物語っているものである。

また、この山の中で刀を一振り見つけたと言う婦人もある。また、馬屋の少し高い所に横穴式の井戸を持つ住居跡があって、素焼きの土器が見つかったと言うことである。

注

この「ふるさと探訪・その2」の内容については、昨年7月発行の「公民館だより」で「とのおの山史話・特集号」でも記事がありますが、この度は、それを古文書をいろいろな方向から調べ、詳しく述べられたもので、興味の尽きない内容です。(黒坂先生に深謝します。)

これは、中世の武士団が一時的に住んでいたのだろうと考えられる。このようなことは、「かき上之小城」に関連した歴史の事実を物語るものである。

南北朝時代の周防国と 鷲頭氏の滅亡

南北朝時代の周防国では、大内氏の本宗家は山口方面にあった。分家の鷲頭氏は北朝に組して下松に根拠を置いて周防国に大きな勢力をもち、その勢力は本家の大内氏をはるかに凌いでいた。

大内弘世は、分家の風下に立つことを快よしとせず、北朝方であったが、それから離れて南朝に組みし、陶(た)弘政を富田に移封し、その家臣の野上氏を城が岡の防守に当らせたのである。

正平七年(1352年)、大内弘世は自ら軍勢を率い、下松に割拠している鷲頭長弘、弘員(男)父子の討伐に当たった。鷲頭長弘は、大内弘世の叔父に当たるのである。前後七年余にわたる度々の激戦の末、鷲頭氏は滅んでしまった。下松に千人塚の地名が残っているほど、戦死者が多数に及ぶ数々の激戦があったことが想像されるのである。

その後、室町時代・戦国時代・江戸時代と時代は移り、城が岡は歴史の表には出なくなった。

「城が岡」と「とのおの山」

城が岡と呼ばれていたこの山は、毛利氏の萩本藩と徳山藩との境界に跨る山で、東南斜面は萩本藩の久米村・平原で、西南斜面は徳山藩の馬屋である。

城が岡の呼称については前述したが、その後、馬屋の人は「じょう山」または「じょうの山」と、平原の人は「岡山」と呼んでいたと言う。「城が岡」が「城」と「岡」に別れたのだろうか。

そして、現在の徳山市役所の土地台帳には、「藤尾山」と記載されている。明治二十年の土地台帳整備の際に、現在のようになったのだろうか。

写真(右)説明

7月初旬に発行した公民館だよりの、「ふるさと探訪・その1」記事で、「杵崎明神」と「河内神社」の現存する祠の写真である。向かって左が杵崎様で右が河内様で、同じ所に鎮座してある。

歴史の流れを

包むとおの山

「とのおの山」の表現文字も、前記のようにいろいろあるが、長く深い歴史と文化を持つ地名を、正しく後世へ伝えるには、「『遠尾山』とすることが穏当であろう」とする郷土史家の言葉を十分考えることも大切である。

とおの山は、少なくとも六百数十年の歴史上の、人と社会の流れを見つめて来た。そして、伝承や伝説を生んできた山である。

造成された今の新しい生活環境も、それを取り巻く周囲に、あるいはその中に、色々な文化と歴史が内包されているのである。

歩いて山頂に至れば、眼前に広がる一大パノラマの素晴らしさは、我々を忘我の境地に誘って、大宇宙・大自然に溶け込ませてくれる。眼下に展開する周南地区は、海と山の緑に囲まれた商工業都市・文化都市として逞しく発展し、明るい未来が輝いて見えるのである。

我々の誇り「とのおの山」

桜木地区に住む我々は、郷土の歴史と文化を理解し、郷土の山河に親しみ、とおの山を仰ぎ見て郷土に愛着と誇りを持ちながら、心豊かな生活を続けたいと思う。そして、この郷土の文化と心を後世に伝承したいと念願するものである。

(※筆者注: 神本正律先生の御懇切な御指導と、藤井末夫氏の御協力に深謝致します。)

